

専務理事訪問記……第4回 ミャンマー・ヤンゴンを訪ねて

訪問先 株式会社フォーバル・ヤンゴン事務所

訪問日 2013. 7. 2～3

今回は、協会会員の株式会社フォーバル・ヤンゴン事務所など、ミャンマー最大都市ヤンゴンの日系企業、JETRO ヤンゴン、丸紅株式会社ヤンゴン支店、そして設立間もない「ミャンマー小売業協会」などを7月2～3日の1泊2日という短時間ながら歴訪してきたので、そこでのヒアリング内容を中心に、今注目のヤンゴンの現状をレポートする。

まず皆さんにご紹介したいのは、JETRO ヤンゴン事務所作成の冊子「ヤンゴンスタイル」である。この冊子、投資家にとっても旅行者にとっても興味ある記事が満載されている。特にヤンゴンの人々のライフスタイルや商業施設などがわかりやすく紹介されていて、小売業に携わる人々にとっても自然と関心を呼ぶ内容だ。

ミャンマーの総人口は、2010年の統計によると6,200万人超。最大都市ヤンゴンには、695万人が居住する。国土面積は日本の1.8倍。ミャンマーは農林水産品が豊富にとれ、日本にも多くが輸出されている。通貨単位はチャットで100チャットは10円である。

ミャンマーそしてヤンゴンが注目されているのは、2011年3月に発足したテイン・セイン大統領が率いる現政権の民主化政策であり、外国資本にミャンマーへの投資を奨励しているからだ。そのための改正外国投資法が、2012年末に大綱が決まり、今年の初めに細則が決定された。

ヤンゴンは、下図の通り、ミャンマー連邦共和国のほぼ中央に位置し、陸路水路、空路のハブ的機能を有している。街の東側にはヤンゴン川が流れ、繁華街は街の南部にある。



ミャンマーブームで毎月800人の来客 (JETRO ヤンゴン)

ヤンゴンの中心地区にあり目下、世界でも一番訪問客が多いのではと言われる JETRO ヤンゴン事務所に高原正樹所長を訪ねた。

《岡部》「私共も含め相当な数の訪問者があるのでしょうか。」

《高原》「毎月500人から800人の日本人が投資関連の情報収集のために来所します。」

《岡部》「小売業の投資動向はいかがですか。」

《高原》「商業関連は、ショッピングセンター、スーパーマーケットなど新店舗がどんどん出店するなど、活気があります。日系の小売業の進出意欲も高いと思います。しかし、改正外国投資法が施行されましたが、大規模商業施設の場合、大店立地規制のあり方がまだはっきりしないなど、依然として課題が多いようですね。コンビニなどFC(フランチャイズ)関係は、現地資本との提携交渉が、水面下で行われているようです。」

また、日系ではありませんが、他のアジア資本が現地資本と合弁でショッピングセンターを最近オープンしています。外国投資法ではなく会社法による合弁だそうです。」

《岡部》「ミャンマーの GDP は一人当たり 800 ドル程度とまだアセアンの中では低い方ですが、ヤンゴンはいかがですか。」

《高原》「統計を調べましたら、1800 ドル程度と思われます。」



《岡部》「一般の人には高価な外国車でも、それを現金で買うことができるリッチなヤンゴンの消費者が存在するのもうなずけます。また、ジャンクション・スクエアなどの最新のショッピングセンターが多くの消費者でにぎわうのもヤンゴンならではのですね。」

ヤンゴン最新のショッピングセンター：ジャンクション・スクエア

《岡部》「日系以外の外資、ウォルマートなどの欧米小売資本の動きはどうか。」

《高原》「日系に較べると欧米の小売資本の動きはそれほど活発には見えません。今は様子見ではないでしょうか。」

豊富な食料資源 流通段階でどう鮮度を管理するか

次に丸紅株式会社ヤンゴン支店 松井俊樹支店長代理を訪問した。事務所は開設間もない新築ビルにあり、テナントはまだあまり入居していなかった。

松井さんは、ミャンマー駐在の前にブラジルやインドの駐在経験もあり、当地では食糧・食品部長として活躍している。

《岡部》「ミャンマーが開放政策に変わって1年余り。経済的に日本をはじめ海外の投資家には注目されている国ですが、課題は多いでしょうね。」

《松井》「ヤンゴンについていえば、経済活動に必要な基礎的なインフラ、電気・水道・道路・港湾などの整備が急務ですね。」

《岡部》「将来的には、ミャンマーには豊富な農林水産品、そして労働力があり、発展の可能性は大きい国ですね。」

《松井》「当社では長年にわたりミャンマー産品の輸出入を手がけています。ミャンマーに事務所を開設して70周年を昨年迎えました。日本人社員はネピドーの2人を加えて、計11人で活動しています。」

《岡部》「ミャンマーの食品輸出は今後、ますます伸長して行くのでしょうか。」

《松井》「非常に有望ですが課題も多いと思います。例えば、物流ですね。水産品の輸出については鮮度の保持が重要ですから、衛生管理、冷凍保存などの設備が必要です。しかし、電力事情が不安定なのでディーゼルなどの補助電源が必要になります。そのため産品の品質管理にかかる電力コストの割合は他のアジア諸国に較べては大きいですね。」

《岡部》「ヤンゴンのスーパーマーケットなどには、たくさんの商品が陳列されていますが、ミャンマーのオリジナル製品はそれほど多くないと言われていていますね。」

《松井》「国産品はまだ少ないですね。タイや中国との国境貿易で他のアジア産品がヤンゴンのような大消費地に大量に流入しています。」

《岡部》「外国投資法も改正され、外資の動きは活発ですか。」

《松井》「食品分野でいろいろな合弁の話が進んでいます。代表的な米国商品のコカコーラやペプシコーラも現地資本との合弁や提携に熱心ですね。」

業種業態に対応した進出支援

日本小売業協会の会員企業であるフォーバル・ヤンゴン事務所には、星野修一郎・同社ヤンゴン事務所長を訪ねた。

同事務所は、トレーダーズホテルの向かい側のサクラタワーにある。同ビルは日系企業の事務所が多数入居していることでも有名だ。

《岡部》「フォーバル・ヤンゴン事務所には日本の中小企業の方が毎日、大勢訪問していると伺っています。」

《星野》「ミャンマー、あるいはヤンゴンに対する関心は大変に強く、将来の投資先として皆さん期待してこられますね。」

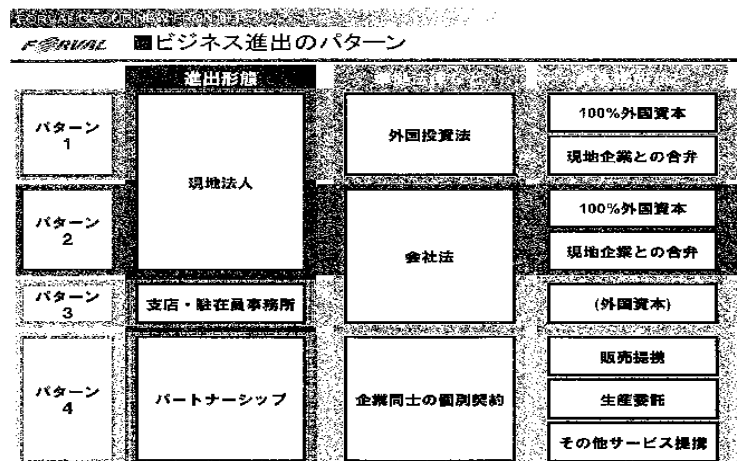
《岡部》「既存の工業団地ですとミンガラドン工業団地が有名ですが、すでに満杯とか。ヤンゴンの南方に日本政府がミャンマー政府と協力して計画しているティアラ工業団地はまだ計画段階ですね。」

《星野》「ヤンゴンには20か所に工業団地がありますので、まずは所在地・開発面積など、その情報を収集して、日系企業に提供しています。」

《岡部》「海外進出は中小企業にとって、情報収集やパートナー探し、法規制、雇用など課題山積ですから、フォーバルさんのサポートサービスは大いに助かりますね」

《星野》「業種・業態によって適した進出のパターンがあると思います。図のような分類にして、中小企業の方にご説明しています。」

《岡部》「どうもありがとうございます。」



ミャンマー小売業協会を訪問

最後に、「ミャンマー小売業協会」のウイン・ウイン・テイン会長ら幹部の方々と意見交換をする機会を持てた。

ウイン会長は、ヤンゴンで「シティーマート」など8つのブランドのスーパーマーケットやコンビニなどを展開する小売のリーダーである。会合で私からは、日本小売業協会、アジア太平洋小売業協会の活動などを紹介すると共に、ミャンマーの小売業に役立つ事業、たとえば人材育成策などに協力したいとした。ウイン会長ら幹部の方々からは、今後とも日本小売業協会と連絡を取り合いたいという要望があった。



<ミャンマー小売業協会を訪問して>

以上（文責 岡部）